

4. 地震や風水害など

(1) 地震や風水害

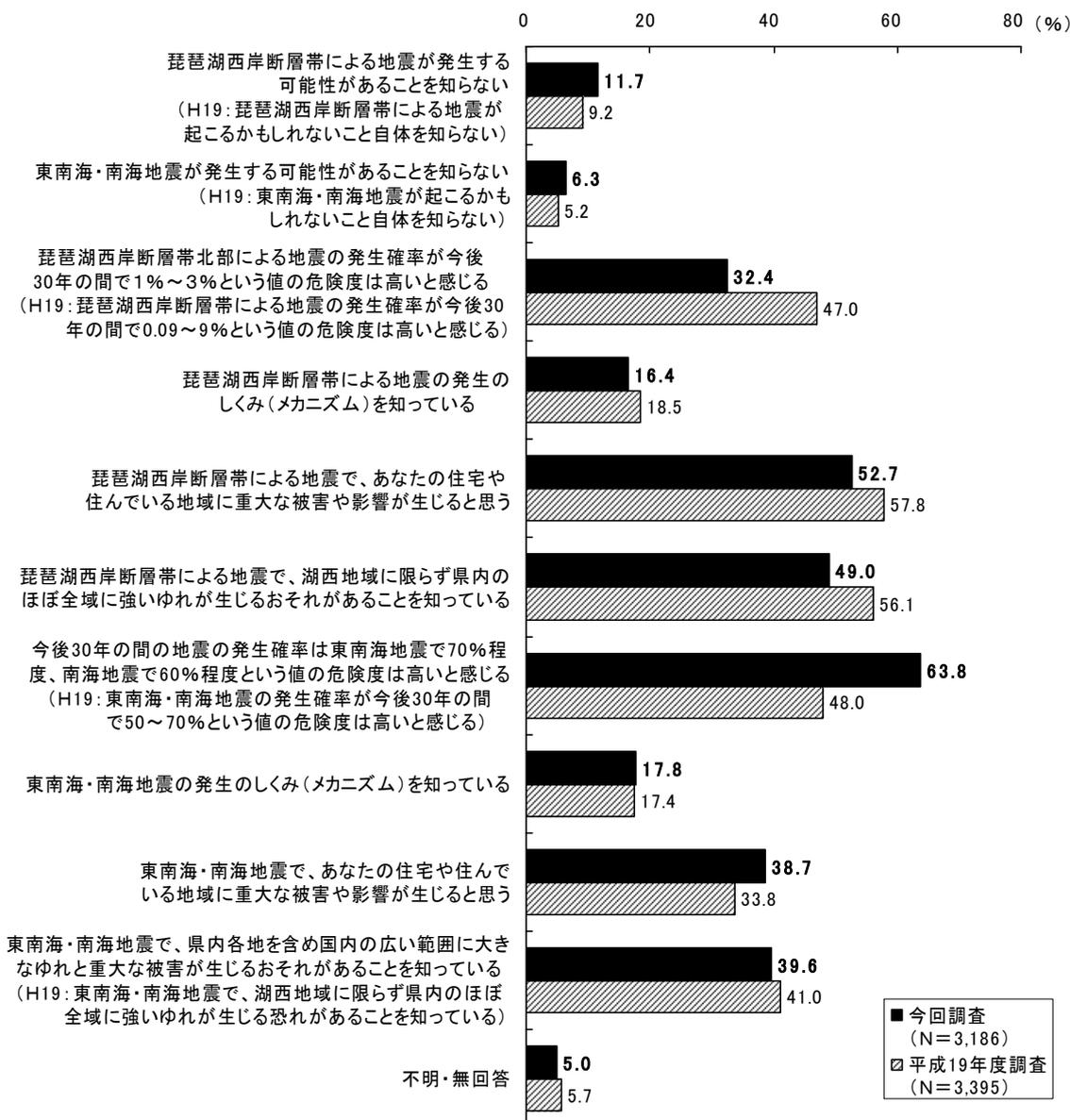
① 地震の認知度

問 19 琵琶湖西岸断層帯による地震と東南海・南海地震について当てはまるものを次から選んでください。(〇はいくつでも)

◆ 「今後 30 年の間の地震の発生確率は東南海地震で 70%程度、南海地震で 60%程度という値の危険度は高いと感じる」が 63.8%

地震については、「今後 30 年の間の地震の発生確率は東南海地震で 70%程度、南海地震で 60%程度という値の危険度は高いと感じる」が 63.8%で最も高く、次いで「琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う」(52.7%)の順となっている。

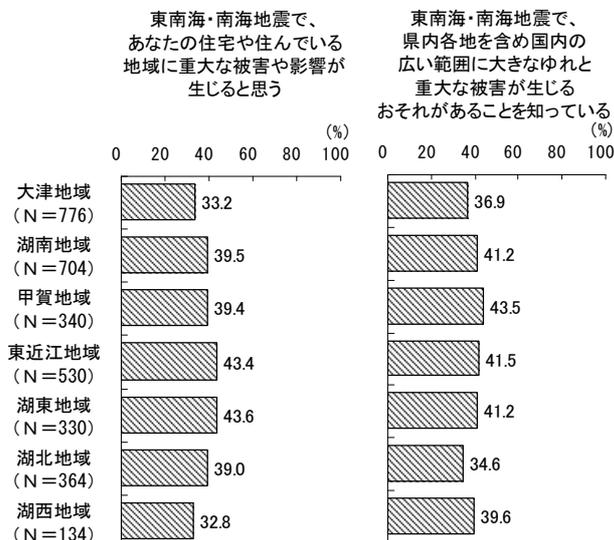
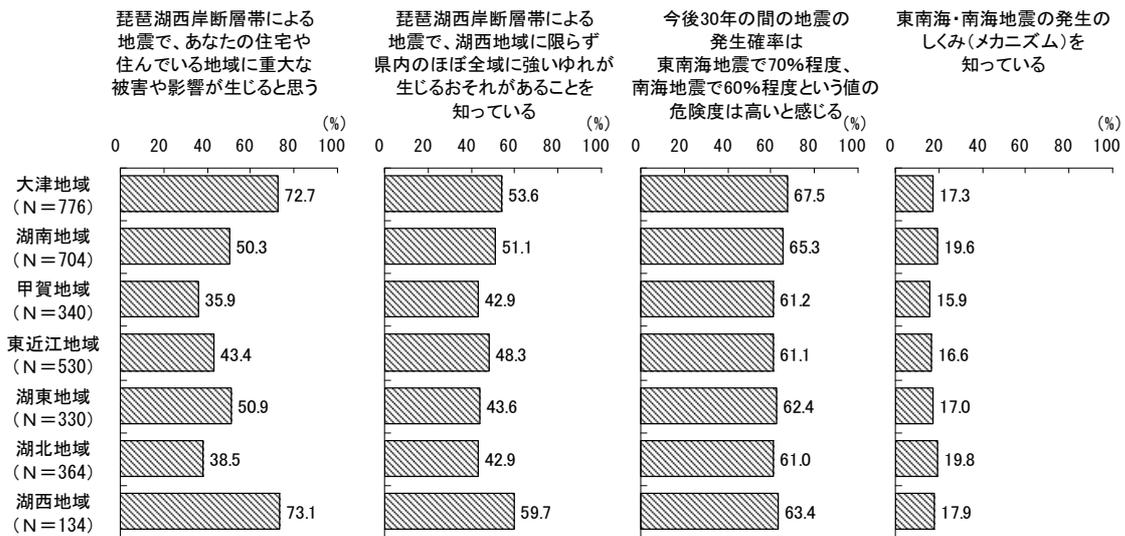
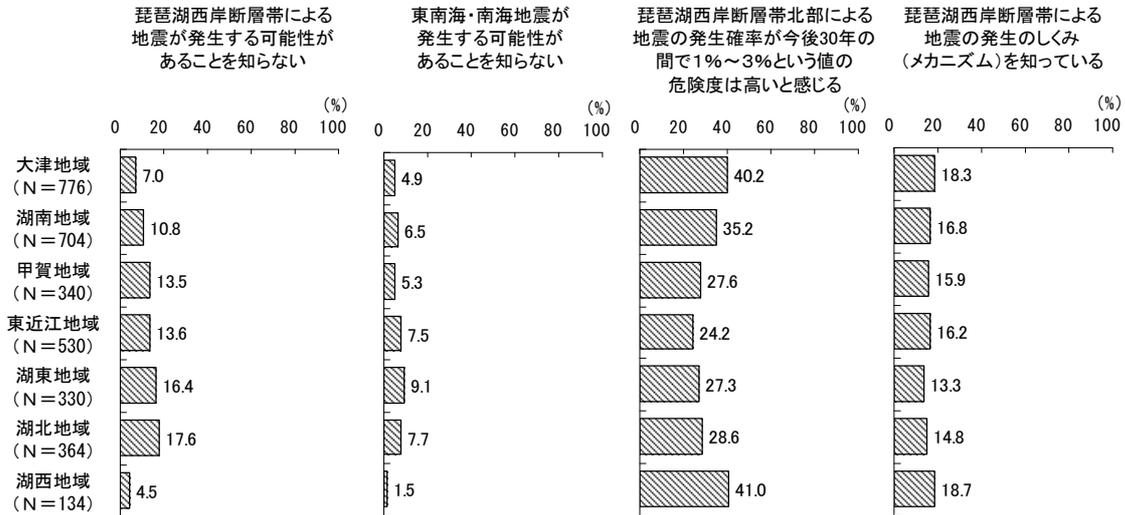
平成 19 年度調査と比較すると、「今後 30 年の間の地震の発生確率は東南海地震で 70%程度、南海地震で 60%程度という値の危険度は高いと感じる」が 15.8 ポイント高くなっている。



【地域別】

大津・湖西地域では「琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う」が最も高く、その他の地域では、「今後30年の間の地震の発生確率は東南海地震で70%程度、南海地震で60%程度という値の危険度は高いと感じる」が最も高くなっている。

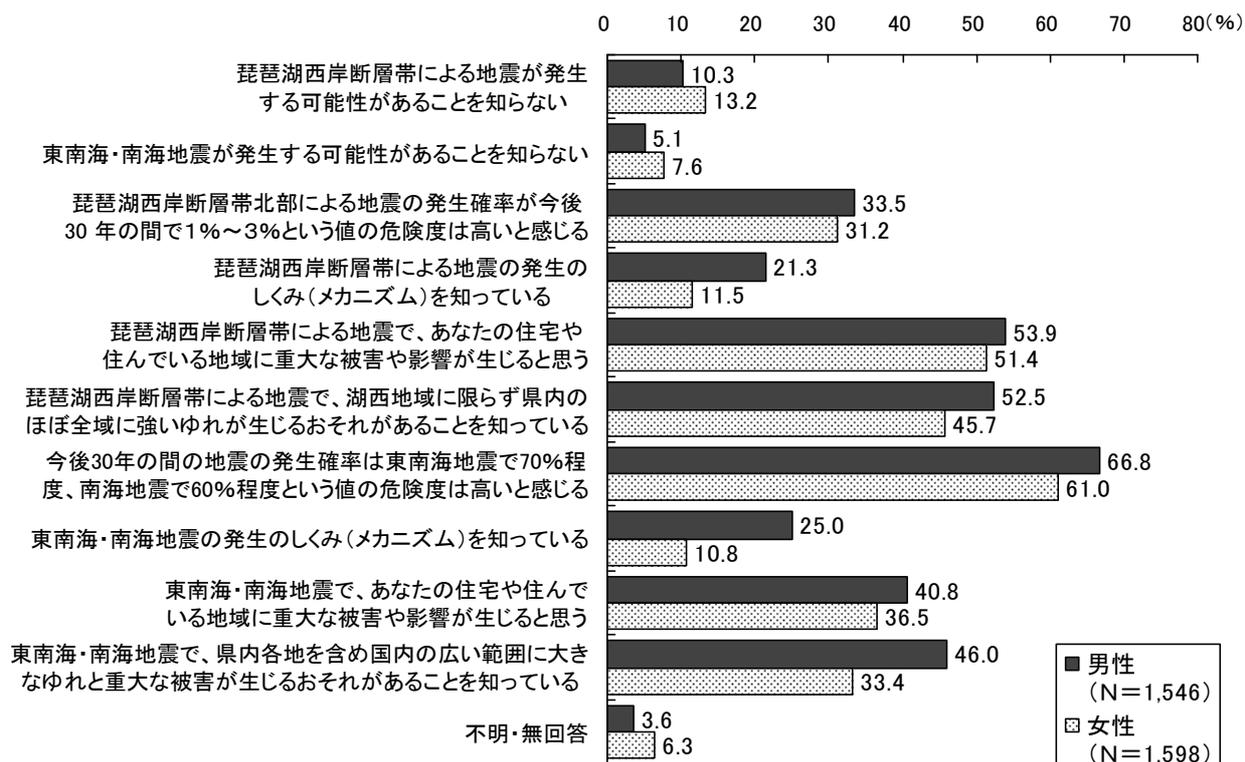
琵琶湖西岸断層帯に関する項目は湖西地域や大津地域で高い傾向にある。



【性別】

男女とも「今後 30 年の間の地震の発生確率は東南海地震で 70%程度、南海地震で 60%程度という値の危険度は高いと感じる」、「琵琶湖西岸断層帯による地震で、あなたの住宅や住んでいる地域に重大な被害や影響が生じると思う」、「琵琶湖西岸断層帯による地震で、湖西地域に限らず県内のほぼ全域に強いゆれが生じるおそれがあることを知っている」の順位となっている。

『知らない』については両項目とも、女性の方が高いが、それ以外の項目はすべて男性の方が高くなっており、『発生のおそれを知っている』は、男性の方が高く、特に東南海・南海地震については、男性（25.0%）が女性（10.8%）を大きく上回っている。



【性・年代別】

男女ともすべての年代で「今後 30 年の間の地震の発生確率は東南海地震で 70%程度、南海地震で 60%程度という値の危険度は高いと感じる」が最も高くなっている。

「琵琶湖西岸断層帯北部による地震の発生確率が今後 30 年の間で 1%~3%という値の危険度は高いと感じる」は男女とも 70 歳以上で、他の年代に比べて高くなっている。また、「琵琶湖西岸断層帯による地震が発生する可能性があることを知らない」は男女とも 20 歳代で、他の年代に比べて高くなっている。

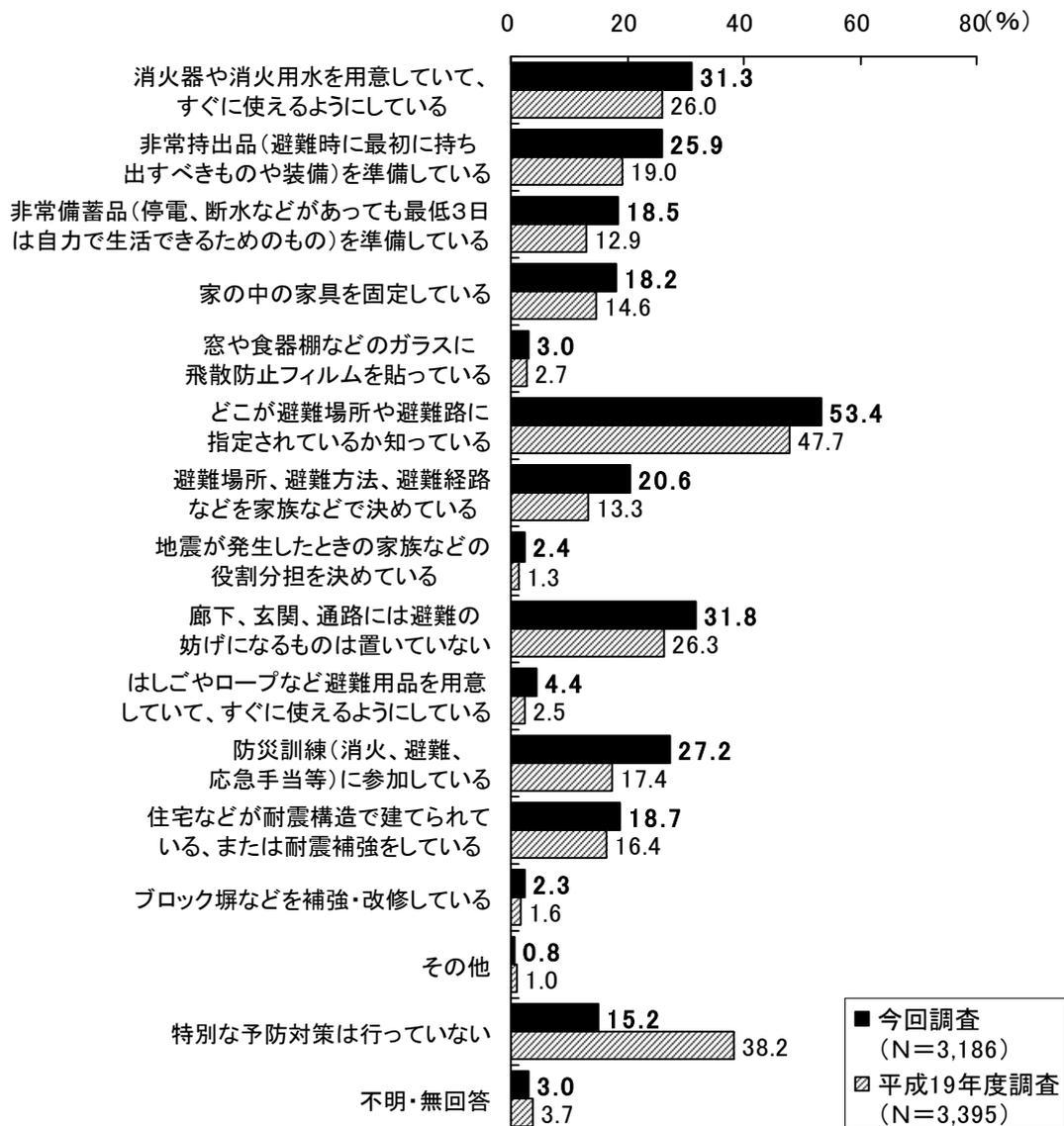
②地震への備え

問 20 あなたのお宅では、地震が発生した場合に備え、日頃から何らかの予防対策を行っていますか。(〇はいくつでも)

◆「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が53.4%

地震が発生した場合に備え、日頃から行っている予防対策は、「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が53.4%と最も高くなっている。

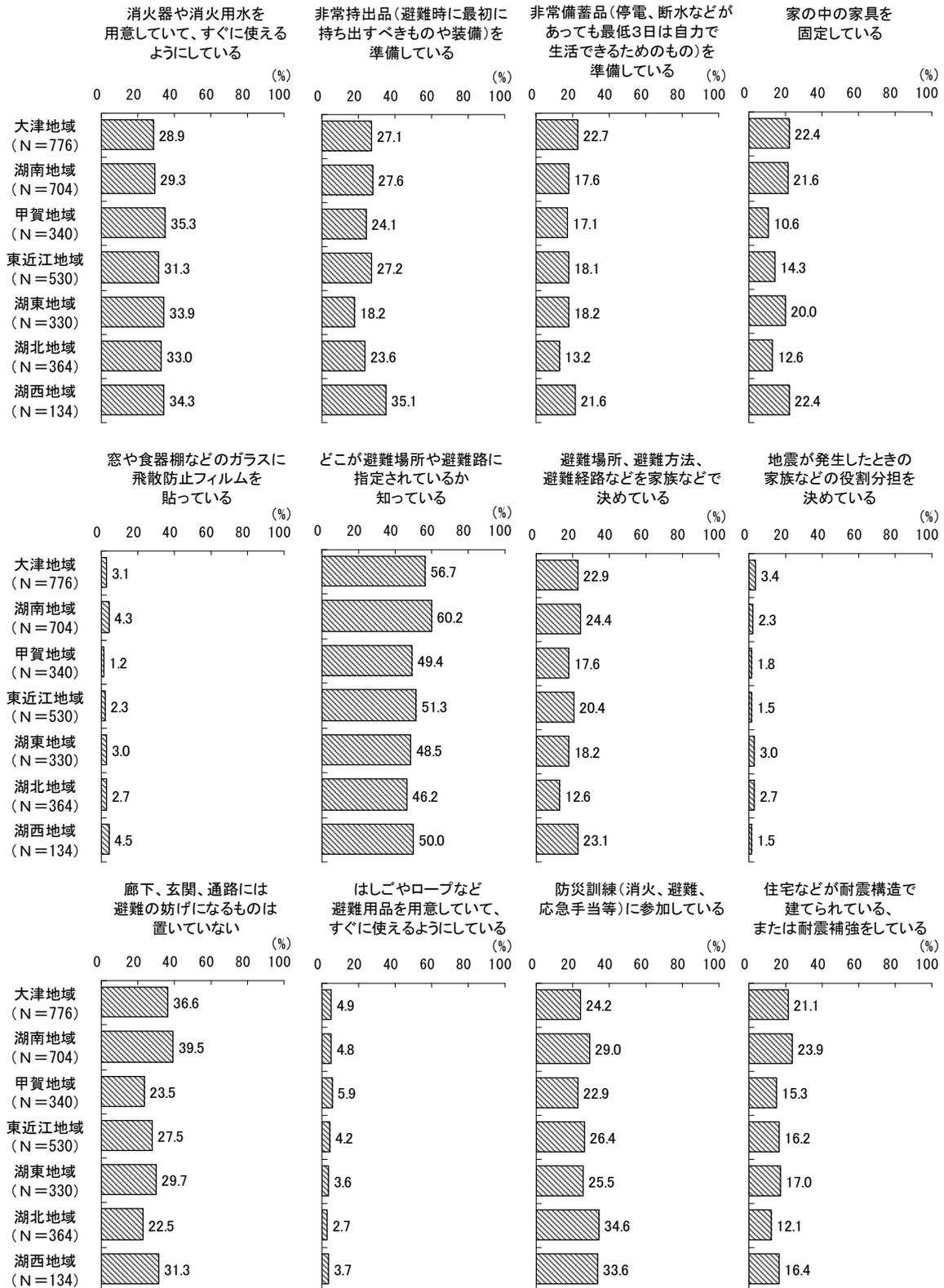
平成19年度調査に比べて、すべての対策で割合が高くなり、「特別な予防対策は行っていない」は大幅に減少しており、予防対策への意識の高まりがうかがえる。

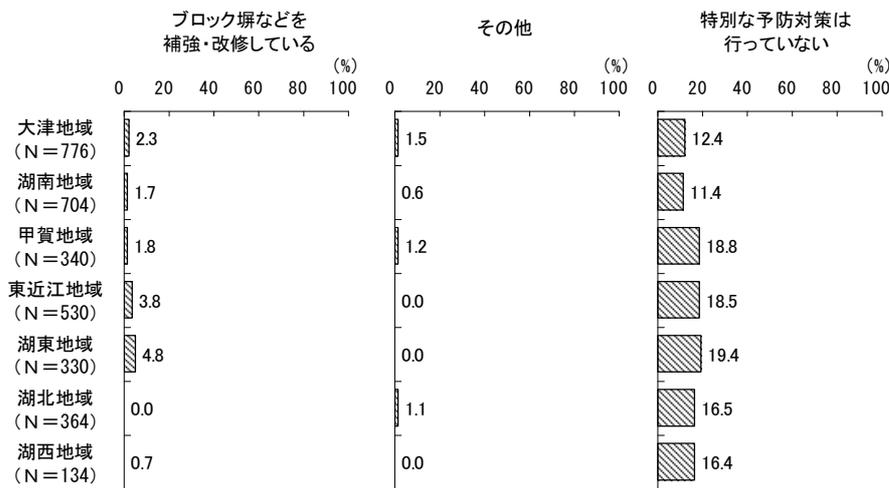


【地域別】

すべての地域で「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が最も高くなっている。

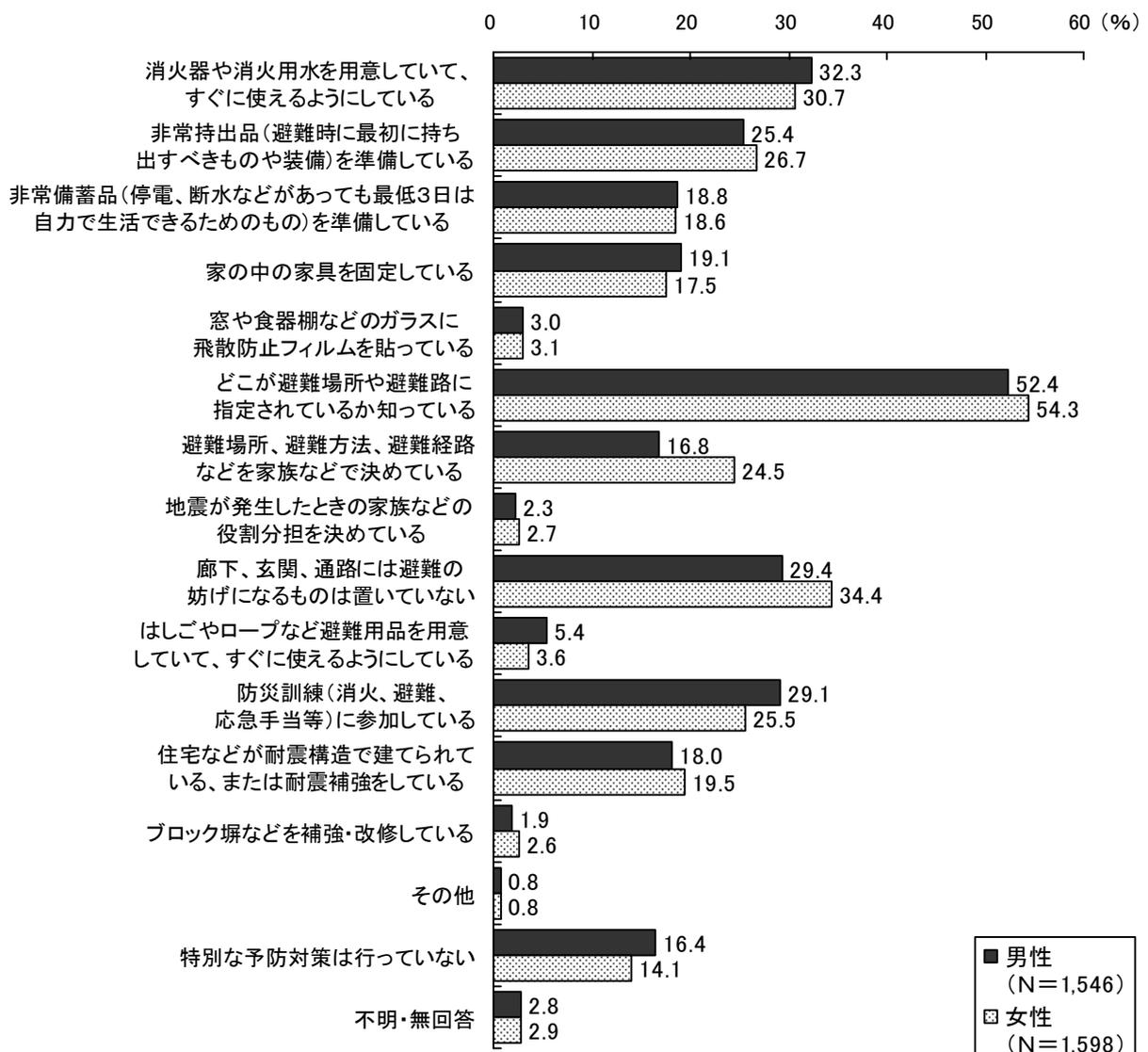
「防災訓練（消火、避難、応急手当等）に参加している」は湖北・湖西地域で高く、3割を超えている。「非常持出品（避難時に最初に持ち出すべきものや装備）を準備している」は湖西地域で高くなっている。





【性別】

男女とも「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が最も高く、次いで男性は「消化器や消火用水を用意していて、すぐに使えるようにしている」が、女性は「廊下、玄関、通路には避難の妨げになるものは置いていない」が続いている。



【性・年代別】

男女ともすべての年代で「どこが避難場所や避難路に指定されているか知っている」が最も高くなっている。

「防災訓練（消火、避難、応急手当等）に参加している」は男女とも50歳以上で高く、3割を超えている。

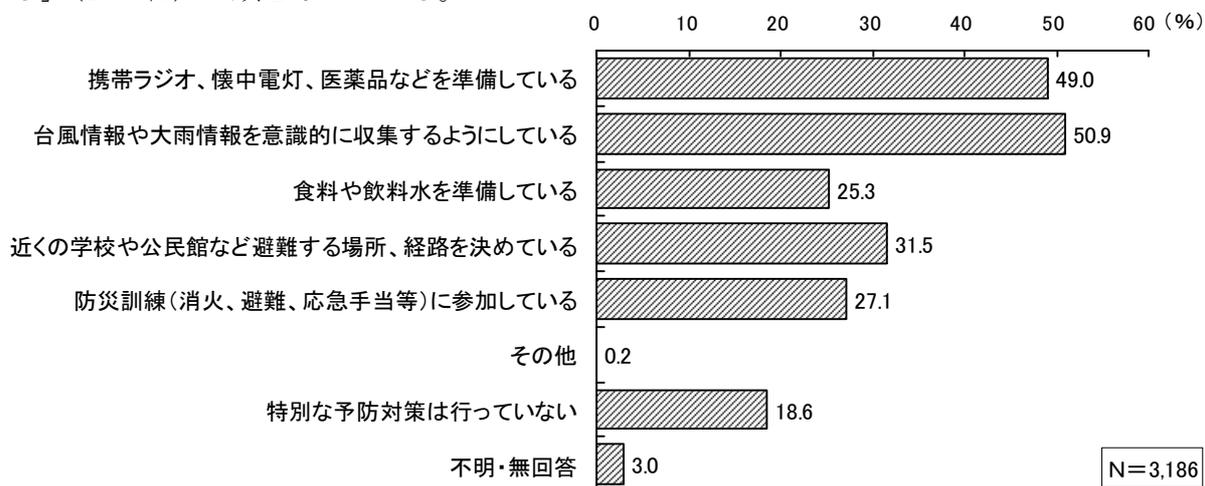
また、「特別な予防対策は行っていない」は、男女とも20～30歳代で高くなっている。

③風水害への備え

問 21 あなたのお宅では、風水害が発生した場合に備え、日頃から何らかの予防対策を行っていますか。（〇はいくつでも）

◆「台風情報や大雨情報を意識的に収集するようにしている」が50.9%

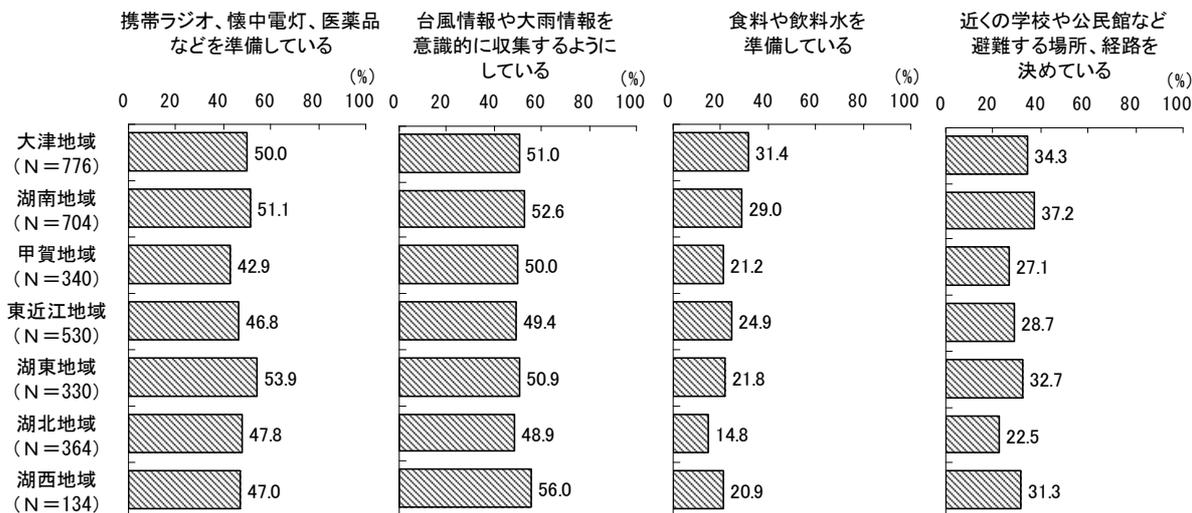
風水害の発生に備えて行っている予防対策では、「台風情報や大雨情報を意識的に収集するようにしている」が50.9%で最も高く、次いで「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」（49.0%）の順となっている。

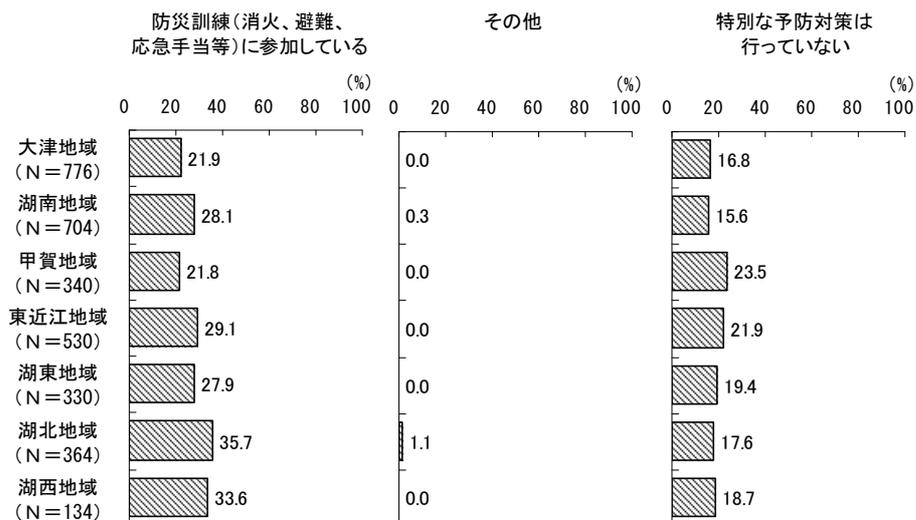


【地域別】

湖東地域では「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が最も高く、その他の地域では「台風情報や大雨情報を意識的に収集するようにしている」が最も高くなっている。

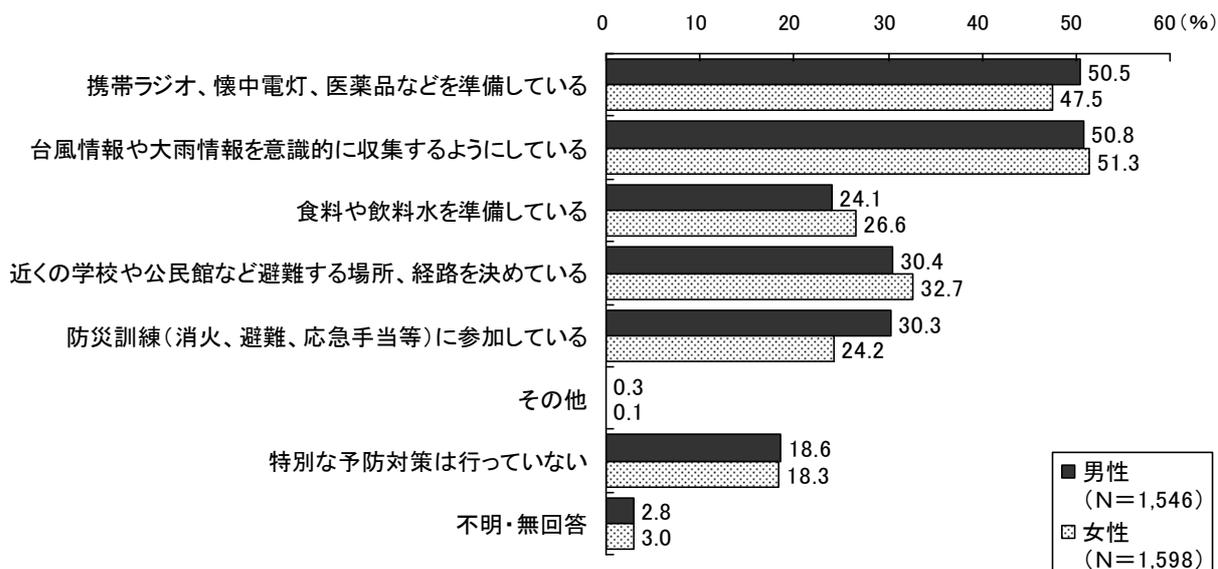
「防災訓練（消火、避難、応急手当等）に参加している」は湖北・湖西地域で他の地域に比べ高くなっている。





【性別】

男女とも「台風情報や大雨情報を意識的に収集するようにしている」が最も高く、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が続いている。



【性・年代別】

男性の60歳以上、女性の70歳以上では、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」が、男性の20歳代では「特別な予防対策は行っていない」が、男女ともその他の年代では「台風情報や大雨情報を意識的に収集するようにしている」が最も高くなっている。

「防災訓練(消火、避難、応急手当等)に参加している」は男女とも50歳以上で高く、「特別な予防対策は行っていない」は、男女とも20~30歳代で高くなっている。

(2) 自主防災活動

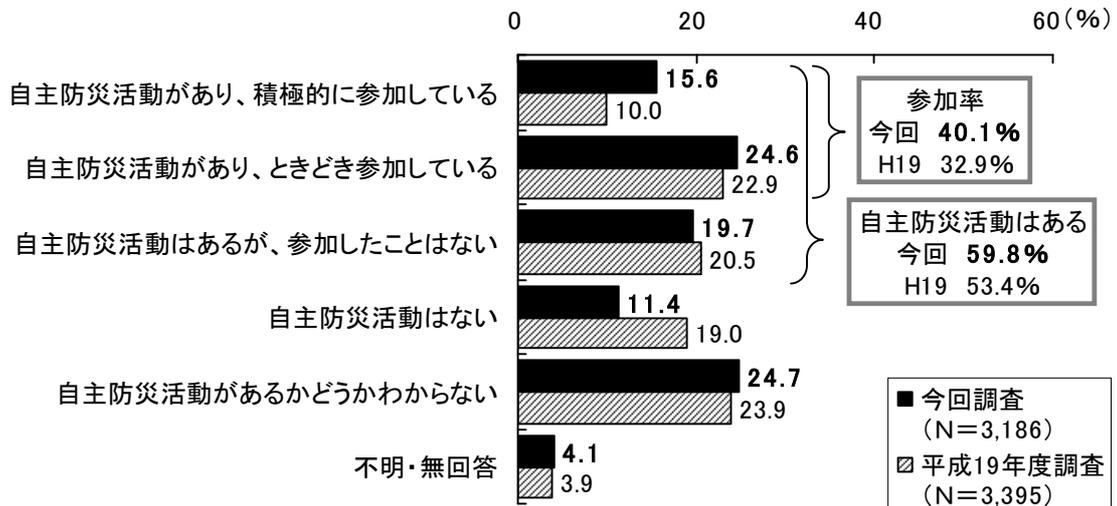
① 自主防災活動の有無と参加率

問 22 町内会や自治会等で、消防団とは別に住民の自主的な防災活動が行われていることがありますが、あなたがお住まいの地域はいかがですか。(〇は1つだけ)

◆ 『自主防災活動はある』は59.8%、「ときどき参加している」が24.6%

「自主防災活動があるかどうかわからない」が24.7%と最も高いが、『自主防災活動はある』(「自主防災活動があり、積極的に参加している」「自主防災活動があり、ときどき参加している」「自主防災活動はあるが、参加したことはない」の合計)が59.8%となっており、「自主防災活動があり、ときどき参加している」が24.6%となっている。自主防災活動への『参加率』(「自主防災活動があり、積極的に参加している」と「自主防災活動があり、ときどき参加している」の合計)は40.1%となっている。

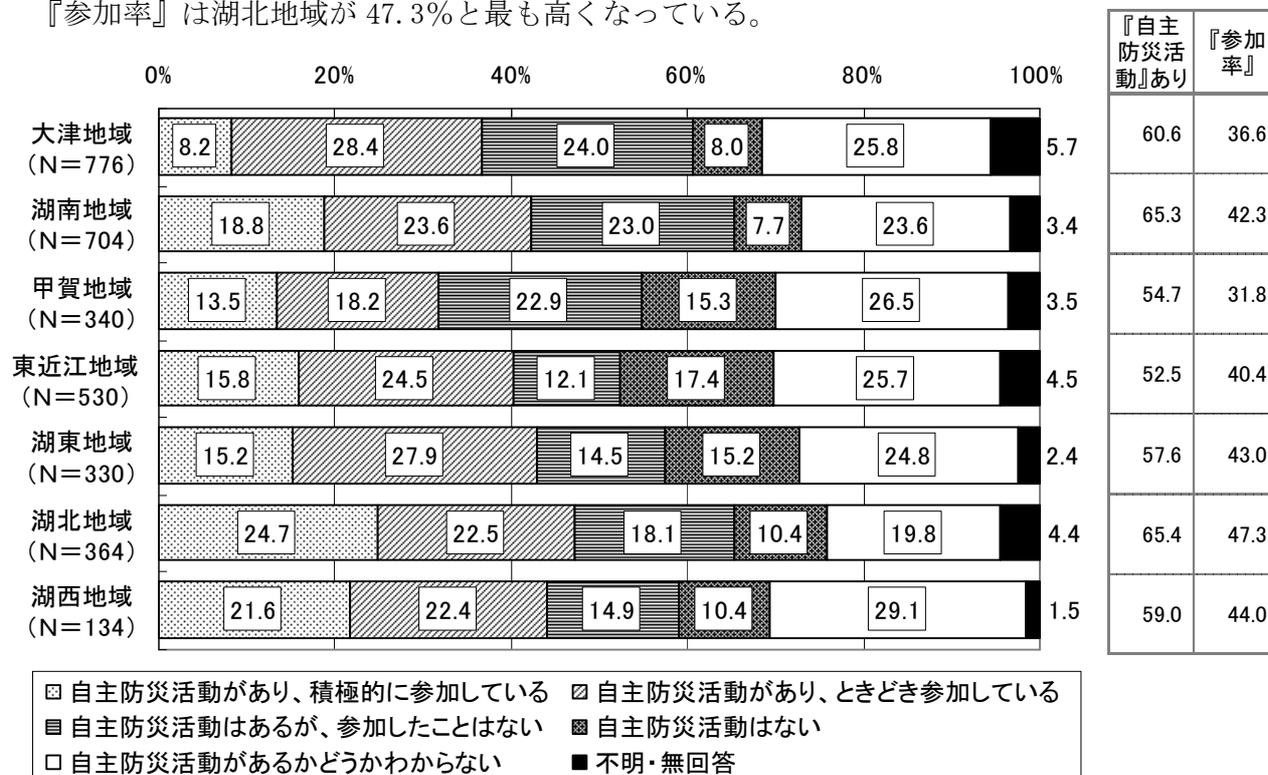
平成19年度調査と比較すると、『自主防災活動はある』は6.4ポイント、『参加率』は7.2ポイント高くなっている。



【地域別】

湖北地域では「自主防災活動があり、積極的に参加している」が、大津・湖東地域では「自主防災活動があり、ときどき参加している」が、湖南地域では「自主防災活動があり、ときどき参加している」と「自主防災活動があるかどうか分からない」が同率で、その他の地域では「自主防災活動があるかどうか分からない」が最も高くなっている。

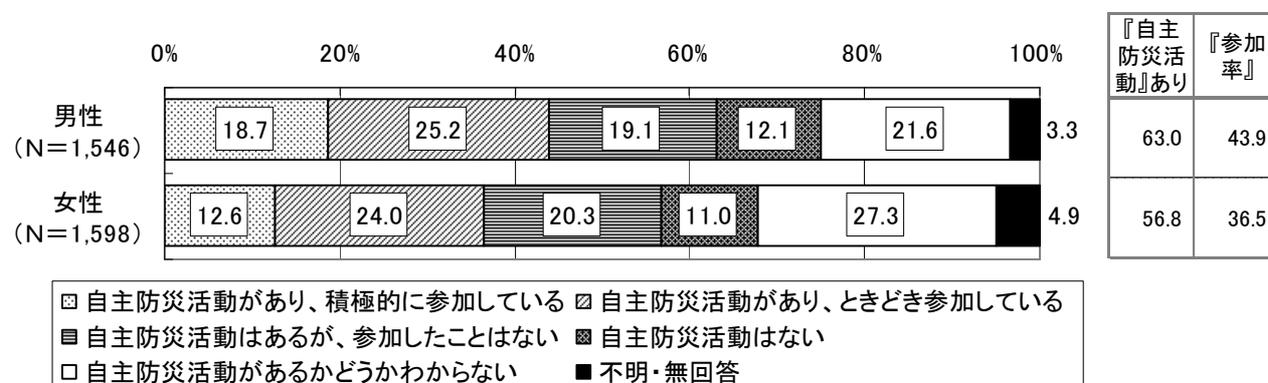
『参加率』は湖北地域が47.3%と最も高くなっている。



【性別】

男性では「自主防災活動があり、ときどき参加している」が最も高く、女性では「自主防災活動があるかどうか分からない」が最も高くなっている。

『参加率』は、男性（43.9%）が女性（36.5%）を7.4ポイント上回っている。



【性・年代別】

男女とも20～40歳代では「自主防災活動があるかどうか分からない」が最も高く、50歳以上では「自主防災活動があり、ときどき参加している」が最も高くなっている。

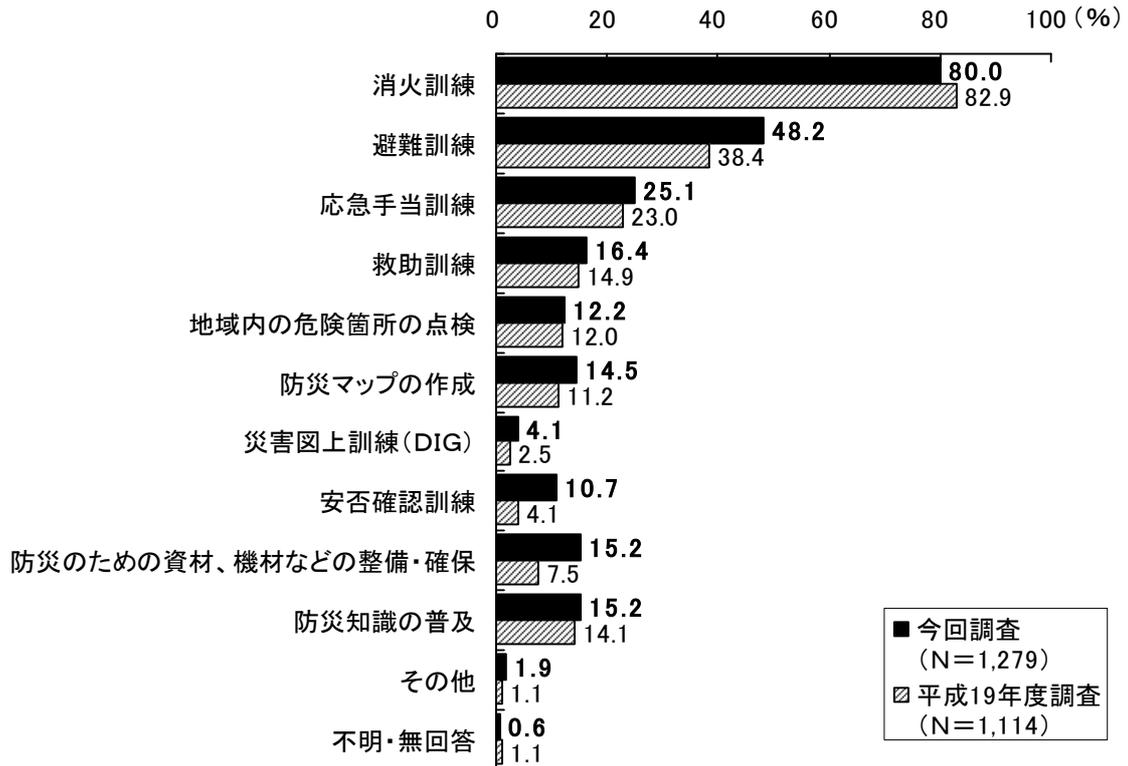
②自主防災活動の活動内容

付問1 問22で「1」または「2」と回答された方におたずねします。その活動内容を次から選んでください。(〇はいくつでも)

◆「消火訓練」が80.0%

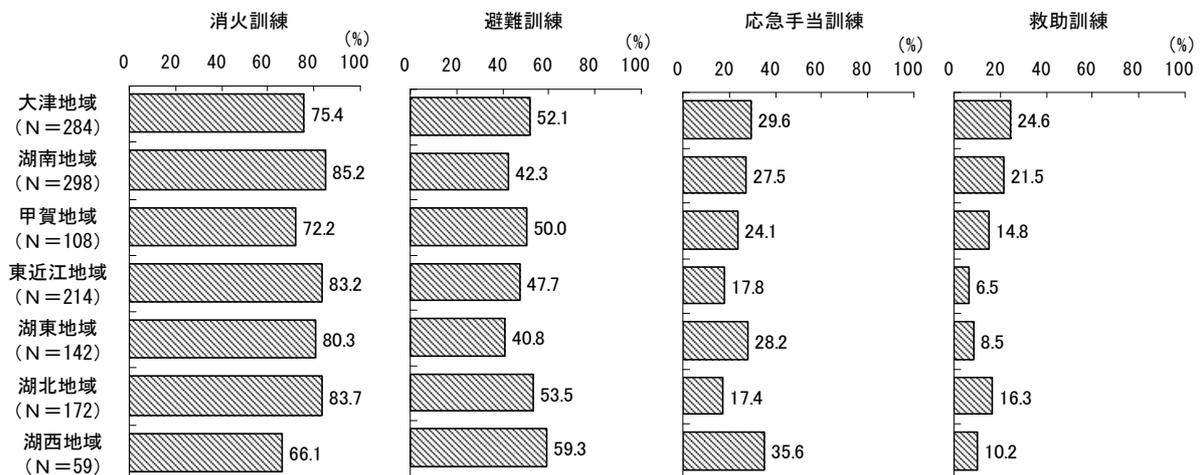
自主防災活動での活動内容は、「消火訓練」が80.0%と最も高くなっている。次いで「避難訓練」(48.2%)、「応急手当訓練」(25.1%)と続いている。

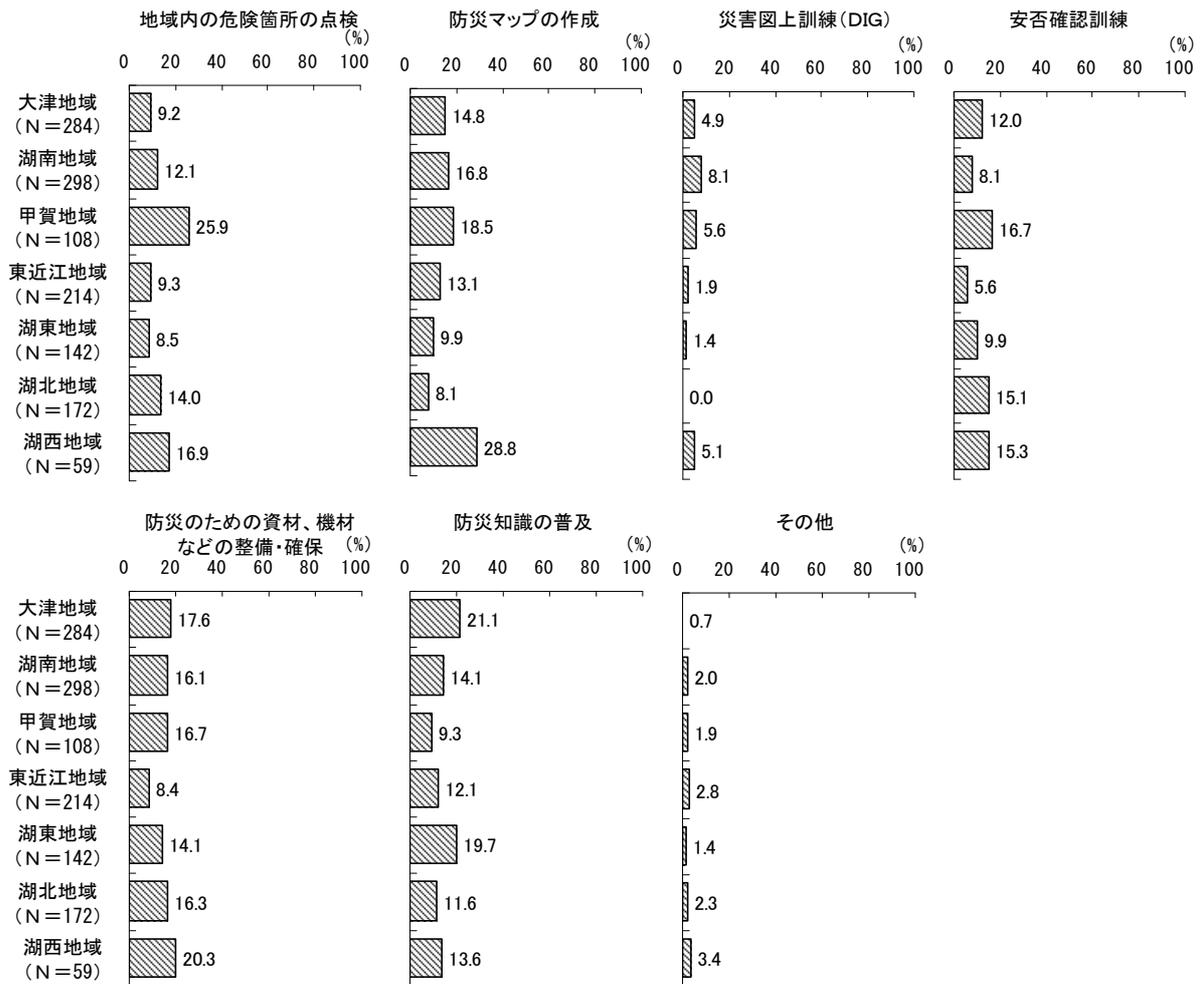
「消火訓練」以外の活動は、平成19年度調査と比べ割合が高くなっている。



【地域別】

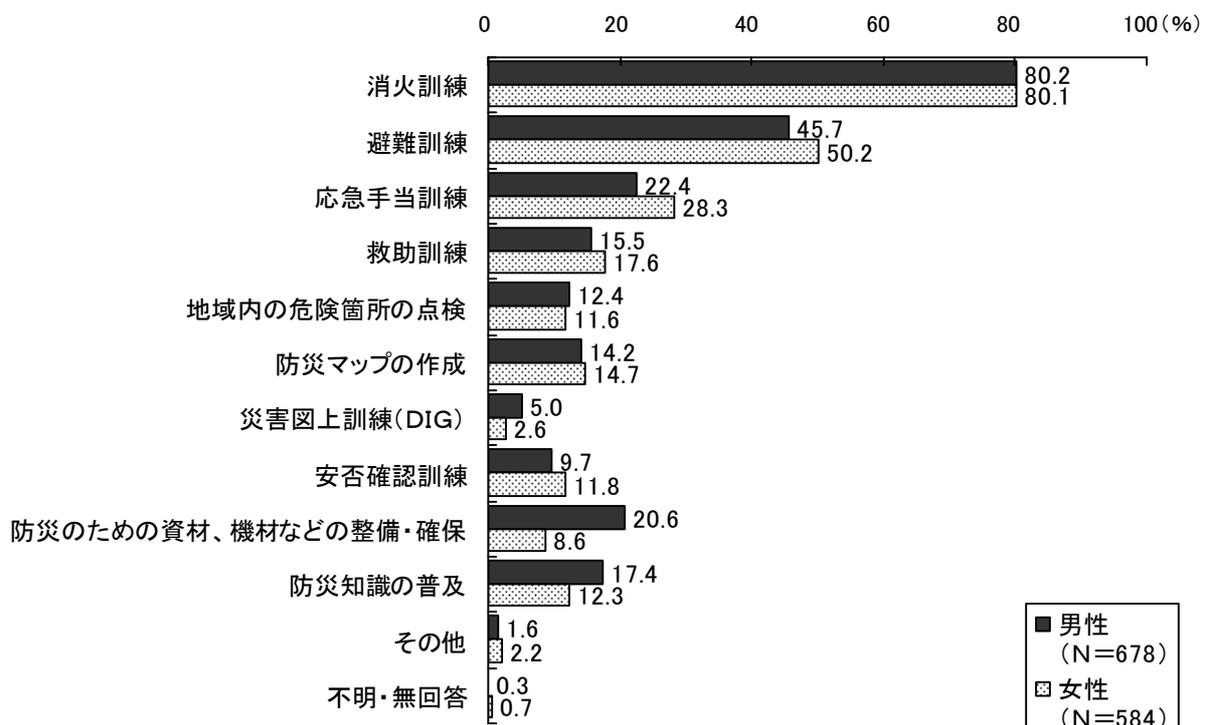
すべての地域で「消火訓練」が最も高くなっているが、特に湖南・東近江・湖東・湖北地域で高くなっている。「応急手当訓練」「防災マップの作成」は湖西地域で、「地域内の危険箇所の点検」は甲賀地域で他の地域に比べ高くなっている。





【性別】

男女とも「消火訓練」が最も高く8割を超え、次いで「避難訓練」が続いている。「防災のための資材、機材などの整備・確保」は男性が20.6%で、女性（8.6%）を12ポイント上回っている。



【性・年代別】

男女ともすべての年代において「消火訓練」が最も高いが、60歳以上が特に高くなっている。

「応急手当訓練」は女性の20歳代で53.3%と、「地域内の危険箇所の点検」は女性の20歳代で26.7%と、「防災のための資材、機材などの整備・確保」は男性の60歳代で33.5%と、他の年代に比べて高くなっている。

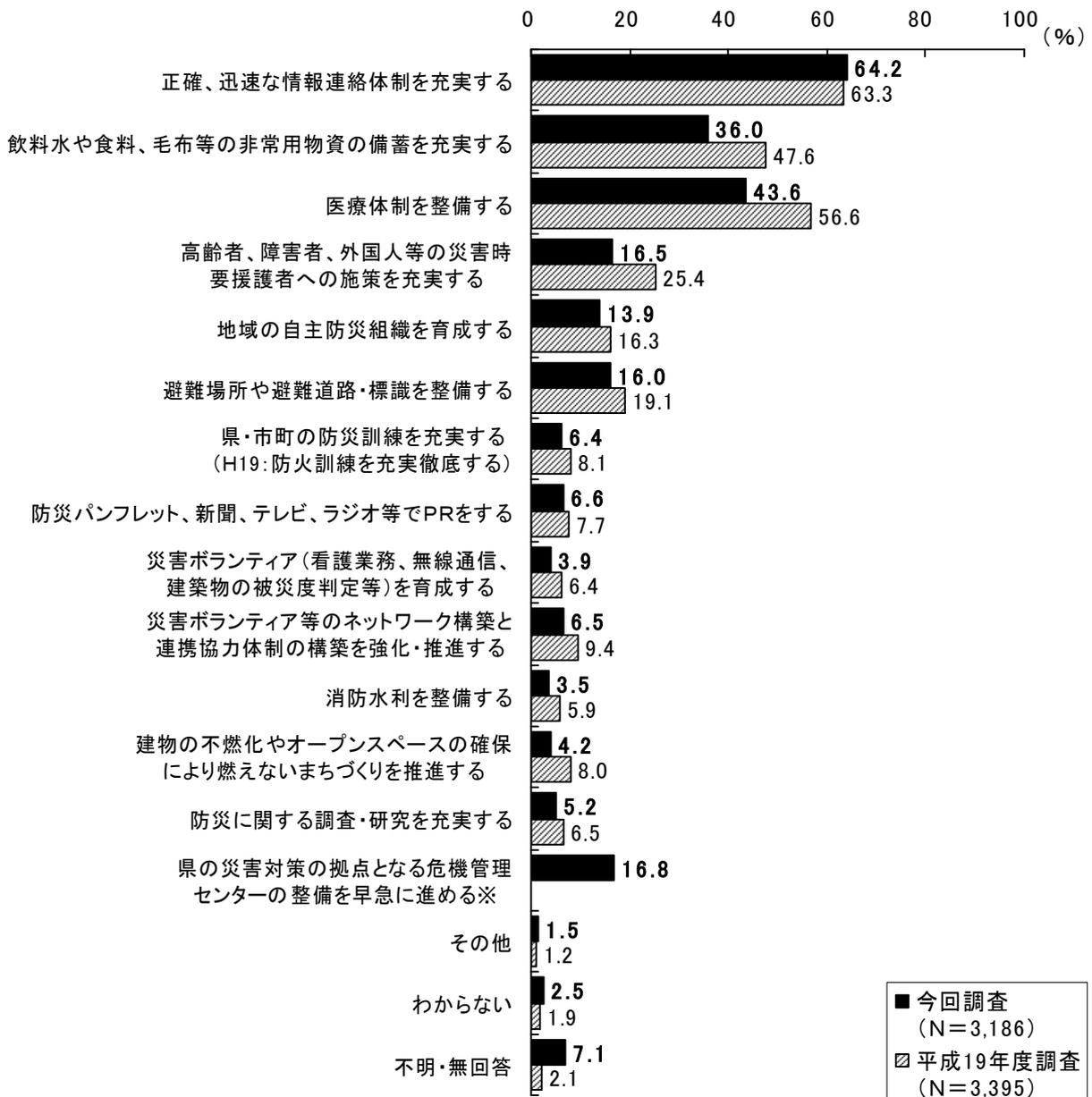
(3) 県が重点をおいて進めるべき防災対策

問 23 あなたは、県が特に重点をおいて進めるべき防災対策は何だとお考えですか。(○は3つまで)

◆「正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が64.2%

県が特に重点をおいて進めるべき防災対策は、「正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が64.2%と最も高く、次いで「医療体制を整備する」、「飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する」の順となっている。

平成19年度調査と比較すると「正確、迅速な情報連絡体制を充実する」をのぞき、割合が低くなっている。

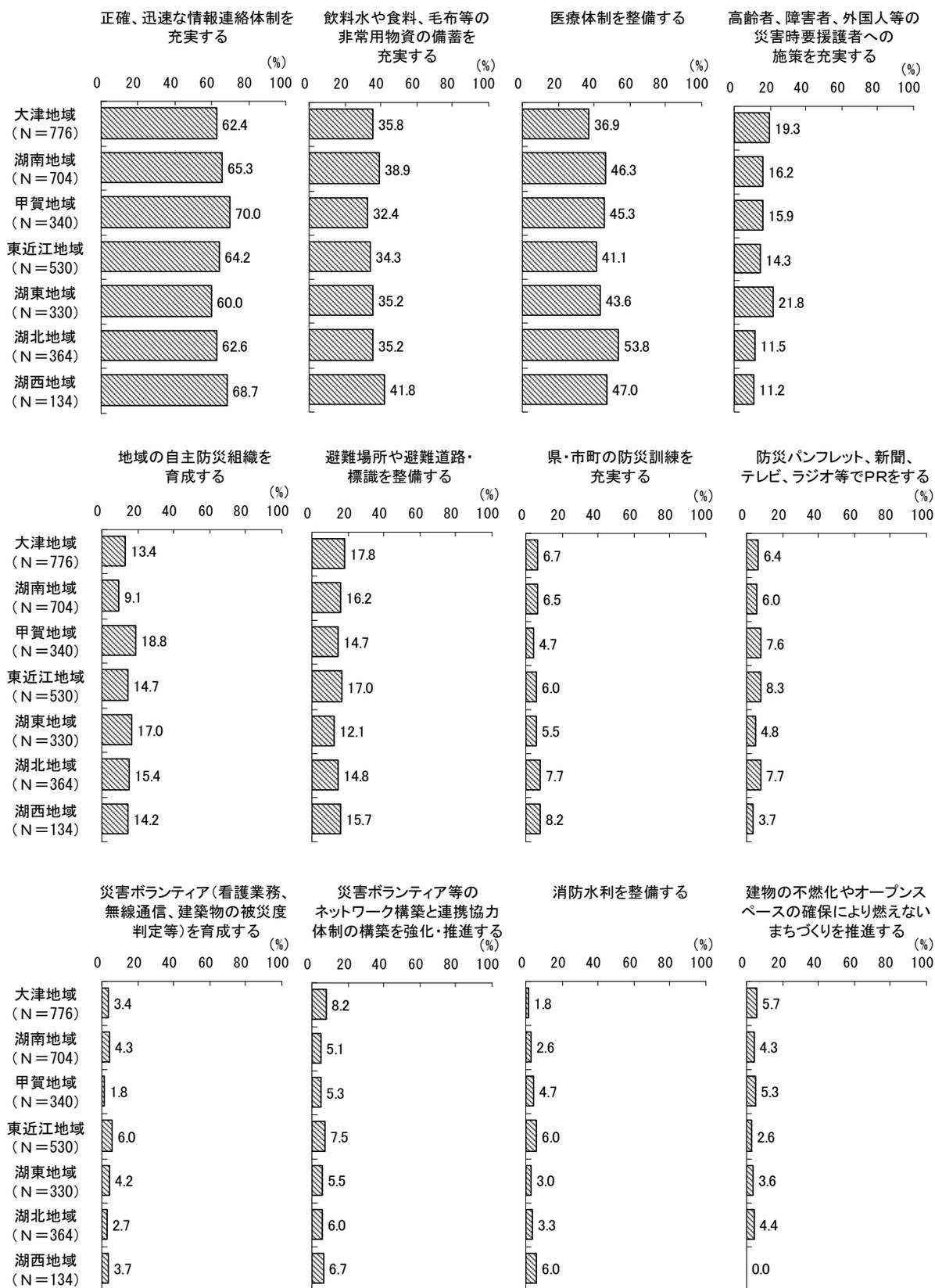


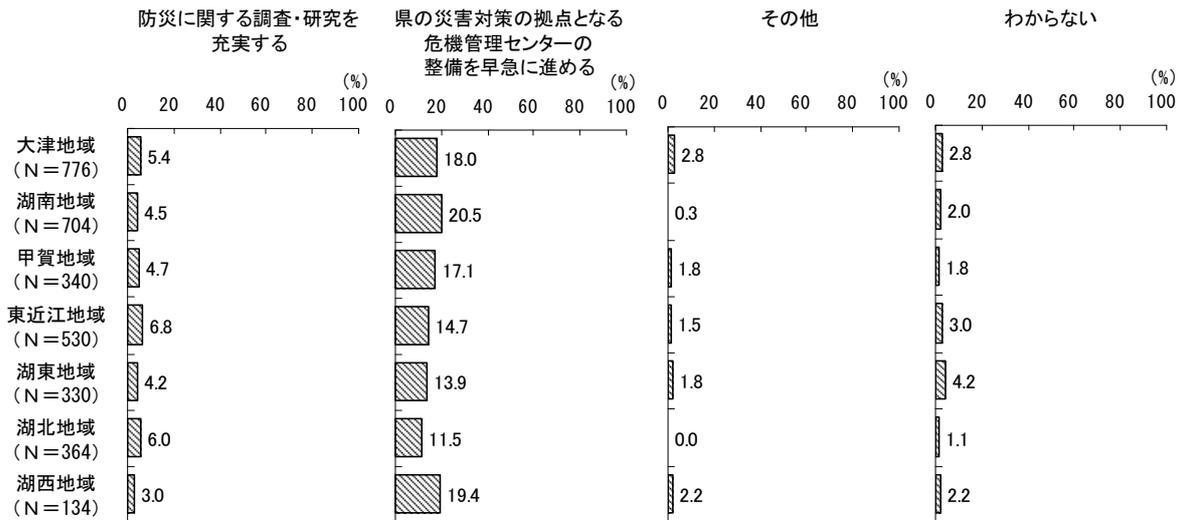
※は今回調査からの新規選択項目

【地域別】

すべての地域で「正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が最も高く6割を超え、中でも甲賀地域は70.0%と最も高くなっている。

「医療体制を整備する」は、湖北地域が53.8%と高く5割を超える。

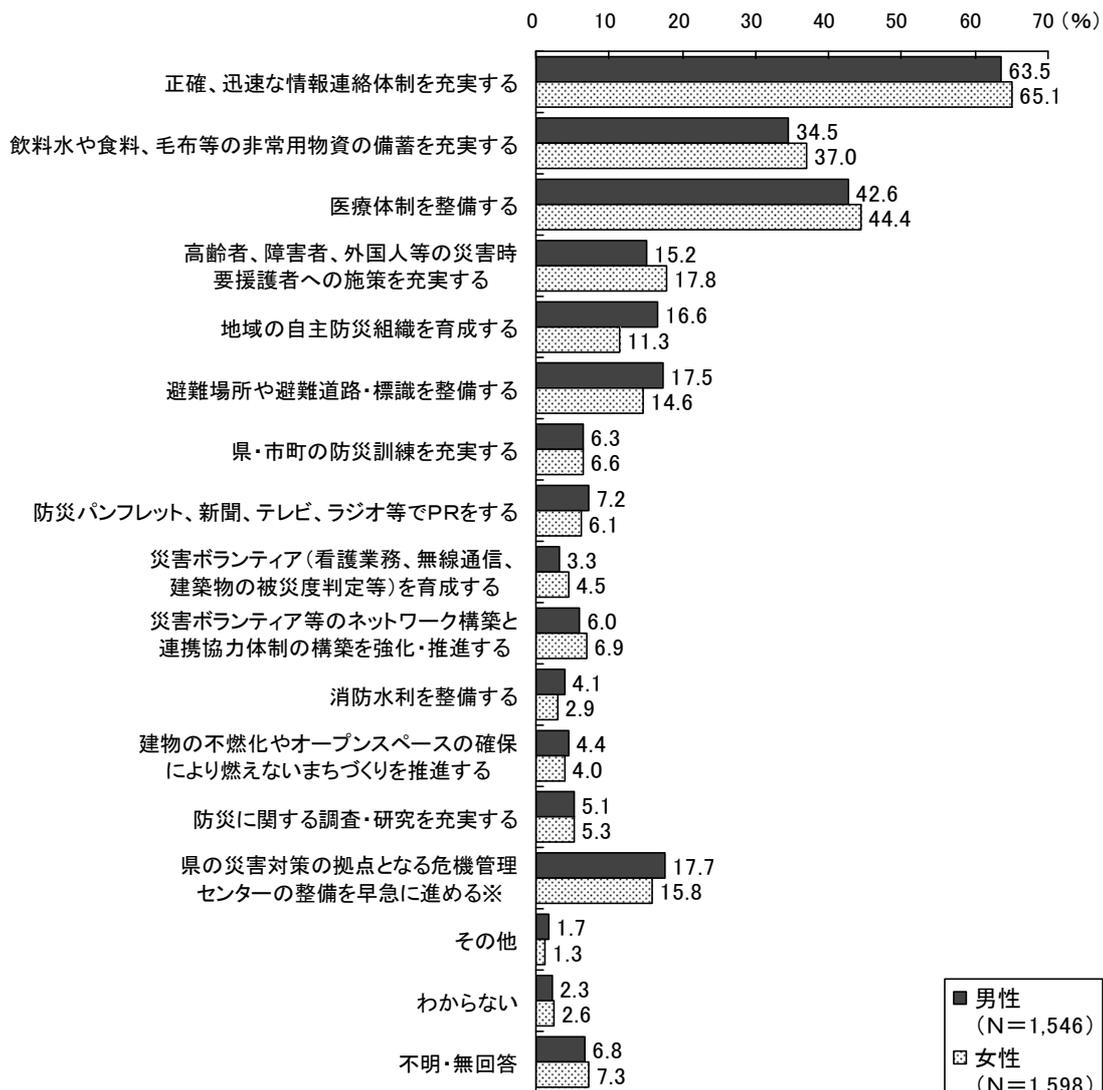




【性別】

男女とも「正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が最も高く、「医療体制を整備する」、「飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する」が続く。

「地域の自主防災組織を育成する」は男性が 16.6%、女性が 11.3%で、男性の方が 5.3 ポイント高くなっている。



【性・年代別】

男女ともすべての年代で「正確、迅速な情報連絡体制を充実する」が最も高くなっている。次いで、男性の70歳以上では、「飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する」と「高齢者、障害者、外国人等の災害時要援護者への施策を充実する」が、女性の70歳以上では「飲料水や食料、毛布等の非常用物資の備蓄を充実する」が続き、男女ともその他の年代では「医療体制を整備する」が続いている。

「高齢者、障害者、外国人等の災害時要援護者への施策を充実する」は男女とも70歳以上で最も高く、3割近くとなっている。